

《PASC通信》

No.-09

2026年1月

【フィリピンのミンダナオ先住民族生計向上支援】

- 第9回現地活動報告 -

現地活動報告_参加者:久米、Mr. Axel (アクセル君)、Ms. Wilma

要旨: 昨年からメイン活動と予定していたマライバライ市にある先住民高校関係者との面談ができなかった。原因は、学校の経営状態が悪化し、すでに閉校状態にあるようです。当校に将来のコミュニティリーダー育成を計画していましたが断念し、今回出会った新たな青年たちを組織化して育成する挑戦へと計画を修正します。

2026年	活動	宿泊地
1月18日(日)	・深夜便で羽田からマニラへ ・マニラからカガヤンデオロ市へ移動	カガヤンデオロ市
1月19日(月)	・ブギドノン州のマノロ・フォルティッチ町役場と農業事務所を訪問	
1月20日(火)	・ミサミス・オリエンタル州タリサヤン市 シバンタン・マハヤグのアバカ生産農業組合を訪問	
1月21日(水)	・カミギン島へ釣行	
1月22日(木)	・ダバオへ移動(6時間ドライブ)	
1月23日(金)	・ダバオ市の繊維貿易会社の訪問調査 ・カガヤンデオロ市へ移動	
1月24日(土)	・国内業務のオンライン会議2件 ・今回の活動まとめ	
1月25日(日)	・アバカ繊維を使ったロープ作りの職人との出会い:試作実演見学	
1月26日(月)	・カガヤンデオロ市から空路マニラへ移動	
1月27日(火)	・マニラから成田空港へ移動	



今回の活動場所及び活動を共にした人たち

1. 主な活動場所

表紙の右図及びこのスライドの右図を参照

- ① カガヤンデオロ市:常連宿泊ホテルがある活動拠点
- ② ブギドノン州のマノロ・フォルティッチ市
- ③ アバカ生産拠点候補地
→ミサミス・オリエンタル州タリサヤン市
- ④ 釣行したカミギン島
- ⑤ ダバオ市

2. 活動を共にした主な人たち

- Ms.Wilma:元TESDA職員で、1996年から3年間久米の同僚で、私たちのフィリピンサイドのリーダー的存在
- Flowing Grain のBobbyさん:ご夫婦共に実業家で久米応援団
- アクセル君:Bobbyさんの紹介で、今回アシスタントとして訪問先のアポ取り、面談記録、運転など久米をサポート

3. 新たに交流を始める人たち

- アバカ農家組合の代表のJunさん
- 日本はじめアバカを輸出する貿易会社の社長や工場長さんたち
- 大学の教員のRoyさん、手工芸職人のメルシイさん



主な活動① ブギドノン州のノロ・フォルティッチ町役場と農業事務所の訪問



- 写真左は、マノロ・フォルティッチ町役場前景。写真中央は、マノロ・フォルティッチ町役場にて、向かって左からDr. Raquel (評議員)、久米、Mr. Joey Gaid(事務長)、Ms. Wilma。
- 面談で、彼らはアバカ栽培の経験について共有し、労働力不足、低い買取価格、蔓延するアバカ病害など、アバカ農家が直面する課題についても言及した。さらに、一部のアバカ農家がアバカ繊維に雑草を混ぜることで品質と市場価値が損なわれているという懸念も挙げた。久米は、アバカ農家を支援し将来の若きリーダーを育成するという活動のビジョンを語った。Joeyさんは、農場にアバカの苗床を所有しており、8種類のアバカ品種が存在し、そのうち5品種を提供可能だと説明した。
- 写真右は、役場から車で10分ほど離れた広い農場に建てられた農業オフィスを訪問、向かって左からMs. Wilma、所長のMs. Jena、Dr. Raruel、久米、アクセル君。オフィスでの面談では、Jenaさんがマノロ・フォルティッチ町の農業マップを共有し、多くの農家がアバカを栽培している地域を強調した。また、プロジェクトに何か問題が生じた場合、農業部門が農民への説明責任を負うことになるため、この事務所との連携が不可欠であると強調した。さらに、適切な手続きのためには、市長室との調整とロードマップの提示が必要だと提案した。

主な活動紹介② アバカ生産組合の代表を訪問



- 写真の左の地図画像の青丸が、今回初めて訪問したアバカ農園があるタリサヤンの位置を示す。
- カガヤン・デ・オロからタリサヤンまで約3時間、左窓から時折海を見ながら車を走らせた。今回は、アバカ農家組合 (Sibantang and Mahayag Abaka Farmers Association) の代表であるMr. Carlito L. Galario (Junさん) と面談。
- 写真中央はアバカ農園の入り口付近 右はJunさんの自宅で協議するJunさん、Wilmaさん、PhilFIDAの女性農業普及員(氏名?)
- 同組合には120名の組合員がおり、収穫可能なアバカを100ヘクタール以上栽培。8,000ヘクタールを超える先祖伝来の土地を所有。
- 同組合は300名以上を雇用する能力を持ち、ほぼ9年間運営を続けている。これまでに直面した主要な課題として、気象災害、植栽から収穫までの高い維持コスト、そして現在の主要な問題であるアバカ繊維の乾燥や機械保管用の適切な倉庫の不足。
- PhilFIDAがセミナーや研修の提供、アバカの苗木の供給、取引業者との連携を通じて組合を支援している。
- 組合員は個人販売が認められている。買取価格はJK等級が1キロあたり55~60ペソ、S2等級が1キロあたり80ペソである。
- 協会内に信頼できる15名以上のリーダーが存在する。

主な活動紹介③ カミギン島へ釣行



google.com

カミギン島 (Camiguin Island) は、フィリピン・ミンダナオ島北部に浮かぶ火山島で、「フィリピン最後の秘境」とも呼ばれ、7つの火山と7つの海岸を持つ自然豊かな観光地です。美しい白い砂州（ホワイトアイランド）や手つかずのサンゴ礁、温泉、滝などがあり、ダイビング、シュノーケリング、トレッキングなどのアクティビティが楽しめ、観光客が少なく静かで穏やかな雰囲気が魅力です。

主な特徴と魅力

- 火山島: ヒボックヒボック山など複数の火山があり、温泉や肥沃な土地が特徴で、エコツーリズムに適しています。
- 「7つの火山と7つの海岸」: 火山地形と美しいビーチが凝縮されており、「ホワイトアイランド」や「マンティグ島」などの見どころがあります。
- 透明度の高い海: 抜群の海の透明度と豊富な魚影を誇り、ダイビングやシュノーケリングのメッカです。
- 静かで穏やかな雰囲気: 観光地化が進みすぎておらず、都会の喧騒から離れてリラックスしたい人におすすめです。



- カミギン島はカガヤンデオロから2時間ほどのバリンゴアンのフェリー乗り場から約1時間の乗船。
- アクセル君の友人のBerny (写真右の奥)と弟 (手前) が所有するバンカーボートで、午後は五目釣り、夕食を挟んで、夜はイカ釣り。翌朝は、宿の前の海岸でルアーフィッシングに挑戦するも釣果なし。
- 大自然、綺麗な海、黄金の夕焼け、大空一面に輝く星、口数は少ないけど釣りや食事を提供してくれた誠実な新しい友人たち。
- 隠れリゾート発掘で今後の現地活動の楽しみが増えた。

主な活動紹介④ ダバオ市の繊維貿易会社の訪問調査



- 1月22日は、写真の左の地図画像の④カミギン島から⑤ダバオへ移動。③フェリーターミナルから車で約10時間、途中からアクセル君の義父（元タクシードライバー）も運転に加わって、午後11時にダバオのホテルにチェックイン。
- 1月23日は、2024年9月にマニラで面談したアバカを日本にも輸出しているエリックさんを彼の会社に訪問する。
- ミンダナオ各地から集積した大量のアバカ繊維に圧倒され、出荷までの4段階の作業を説明を受けながら視察した。
- ミサミス・オリエンタル州タリサヤン市のJunさんたちのアバカ生産組合視察結果を共有した。
 - エリックさんは、取引相手としての大きな関心を示したので、まずは組合リーダー達ของบริษัท訪問研修を提案、快諾された。
 - 生産農家組合とバイヤーを仲介できたが、両者の相互信頼構築や先住民生計向上の目的達成のロードマップが必要。
- エリックさんの会社⑤を2時30分に出て、途中夕食を取って、カガヤンデオロ①の宿に8時過ぎに到着した。

主な活動紹介⑤ アバカ繊維を使ったロープ作り職人との出会い



- アクセル君を介して、通産局傘下組織に働くMs. Mercy Sagion(メルシーさん)と出会った。
- メルシーさんは、アバカ繊維を使った手工芸品作成の仕事に従事している職人さんである。
- 早速、ダバオのエリックさんから分けてもらったアバカをロープに編んでもらった。
- ロープは2種類、一つは2つ編み、もう一つは女性の髪型に見る三つ編み(写真右)である。
- このロープ編み手技をアバカ農家の女性達に伝承して、内職収入の可能性を模索している。
- アバカはバナナと同じ種類で、できればバナナ繊維からワラジ試作を期待している。
→バナナは収穫後に伐採されて投棄される、この大きな幹を資源として活用しない手はない。

今後の活動 アバカサプライチェーン構築とそのロードマップ作り

サプライチェーン(案)	ロードマップ(案)	主な活動(素案)
<p>①先住民農家 ↓ ②栽培・収穫 ↓ ③繊維抽出 (手作業 or 簡易機械) ↓ ④乾燥・切断・選別・結束 (25kg) ↓ ⑤集荷・保管 ↓ ⑥バイヤー／加工業者 ↓ 国内外市場</p>	<p>①基盤づくり期 (Foundation) 目的:信頼関係と現状把握</p>	<p>@サプライチェーンを導入、モニタリング、指導するグループの組織化 @グループメンバーの人選および育成 @50ヘクタール以上のアバカ農園の選定およびベンチマーク調査 @アバカ生産性向上とコミュニティー開発の啓蒙</p>
	<p>②アバカ農家への教育訓練提供</p>	<p>@PhilFIDAやバイヤー企業と連携を強化する @訓練コースや教材の開発(苗植え、繊維抽出、乾燥、保管、出荷など) @農家へのアバカ生産技術の指導(苗植え、堆肥、防虫、収穫など)</p>
	<p>③繊維抽出の訓練</p>	<p>@アバカの需要と供給 @繊維規格による選別(グレーディング):PhilFIDA資格認定コース @スピンドリマシンによる抽出 @マニュアル装置による抽出</p>
	<p>④乾燥・切断・選別・結束の訓練</p>	<p>@アバカの集積工場で行っている作業を、アバカ農家に指導する →バイヤーは規格ごとに125kg単位で結束し、輸出する →農家では正確に25kg結束までを行うことで売値拡大に繋げる @アバカ取引の品質保証、付加価値、相互信頼などの講義</p>
	<p>⑤集荷・保管の訓練</p>	<p>@モンスーンの季節など、湿気による水分含有や変色対策の指導 @納期に関する教育など</p>
	<p>⑥バイヤー／加工業者との連携</p>	<p>@農家組合との契約提携 →FPICは次の4つを満たす合意 ・F (Free) : 強制や圧力がない ・P (Prior) : 事業開始「前」に説明・合意がなされる ・I (Informed) : 内容・リスク・利益を十分に共有される ・C (Consent) : コミュニティが納得する</p>